

アドベンチャーワールド

パンダが食べ残した竹で製作する「アオリイカの産卵床」

実施期間：2023年6月14日（水）～2024年5月31日（金）



【事業の内容・目的】

アドベンチャーワールドでは、循環型パークとして、紙・プラスチックの利用削減・アップサイクルなどの廃棄物「ゼロ」に取り組み、資源の循環、環境負荷低減に取り組んでいます。当パークで飼育しているジャイアントパンダは竹を主食としますが、気に入った竹しか食べないため与える量の2/3程度は廃棄となり年間約100tの竹を焼却処分してきました。2019年より「パンダバンププロジェクト」としてパンダが食べない竹を有効資源として活用すべく、様々な活動に取り組んでまいりました。

黒潮の大蛇行による海水温の変化で、アオリイカが産卵するための海藻類が育たない状況の中、パンダが食べ残した竹の枝葉部分を海底に沈めることで産卵床の役割を果たすことを目指しました。

- ・白浜の海の環境課題を知るきっかけをつくります
- ・白浜の海が抱える課題を自分ゴト化し、行動変容を促します
- ・地域の皆様と環境を回復させる取り組みを持続的に行うことで人と動物と自然の多様性・持続性に満ちた海を次世代に送り継ぎます

活動の様子

1. 産卵床の製作、設置

【開催日時】2023年6月14日（水）8：30 ～ 12：00

【開催場所】アドベンチャーワールド、白浜の海（白良浜沖、円月島付近）

【参加者数】53人

【活動内容・目的】

- 海の課題や環境保全についてレクチャーを実施
海の環境を守るために自分たちにできることを一緒に考える
- 地元中学生と産卵床を製作
- 地域の海で産卵床を設置



地元中学生を対象に海の現状と環境課題に関するレクチャーを実施しました。この教育活動を通じて、生徒たちは海洋汚染や生物多様性の喪失など、海が直面する問題について学びました。また、地域から始める環境保全のアプローチとして、竹を使用した産卵床の設置の重要性に触れ、自分たちにできる環境保護の行動を一緒に考えるワークショップを行いました。この取り組みは、生徒たちに環境問題を自分事として捉え、持続可能な行動へと繋げる貴重な機会となりました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



生徒たちは製作した産卵床を船で運び、白浜の海に設置し、製作から投入までの体験を通じて海の環境課題を学びました。この活動は、自分たちの町の手を考へ、環境保護への関心を深める貴重な機会となりました。

【参加者の声】

- 今回の体験でパンダの残した竹を処分するだけではなく、環境を考へて利用するという発想がすごいと思いました。私たちにできること、利用できることを探してみたいと思いました。
- 今日は校外学習で、パンダが食べ残した笹を使ってアオリイカの産卵床を作りました。今日は校外学習で、パンダが食べ残した笹を使ってアオリイカの産卵床を作りました。私たちがごみを捨てるから海が汚れてしまうことが改めて分かったので「ごみを捨てる」ということを続けていきたいと思いました。
- パンダの残した笹をブロックにつめるのは結構大変でした。「環境に適しているし、笹はリサイクルになるし、海の手物にも役立つし、みんな楽しめた1日だったので、とっても良かったな〜。」と思いました。
- アオリイカの卵を産むところは少なくなっていくことを知ったし、白浜の手を守るためにごみを減らそうと思いました。
- 校外学習が面白かった。船に乗れたのがとてもいい経験だった。きれいな海だけど、さまざまな課題があることが分かった。
- 海の手物を知ることができたし、その解決方法をしれました。自分の地域の名物と環境を結び付けられるのはいいなと思いました。

2. 産卵床のモニタリング

【開催日時】 2023年6月17日（土）～8月23日（水）

【開催場所】 白浜の海（白良浜沖、円月島付近、伊古木漁港内）

【参加者数】 8人

【活動内容・目的】

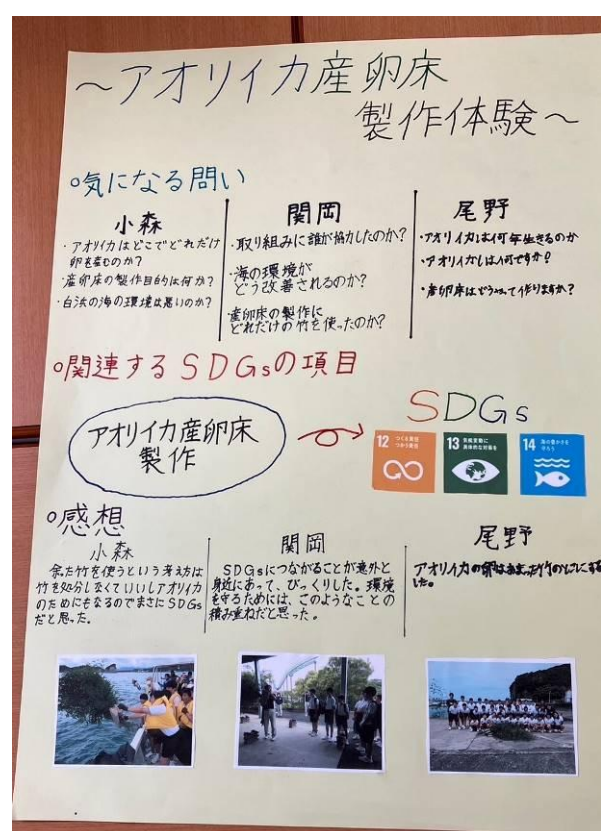
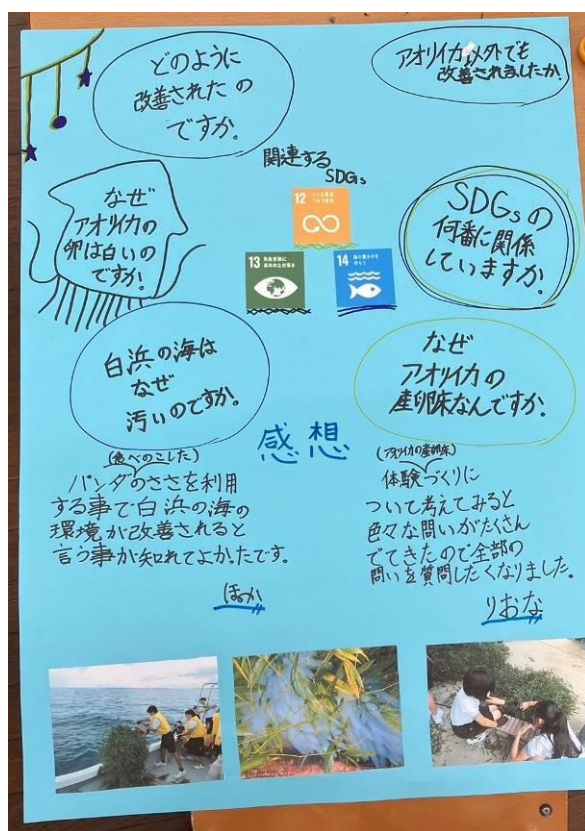
- 産卵床のモニタリング
- 産卵の有無を確認



- ・定期的に設置した産卵床のモニタリング調査を実施しました。
- ・産卵の有無や卵の変化を観察しました。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



白浜中学校の生徒たちは、活動の振り返りとして、なぜこの活動を行ったのか、新しく知ったことや海の環境が自分たちの生活にどう影響しているのかについて考え、発表し合いました。

3. 活動を解説するパネル展示

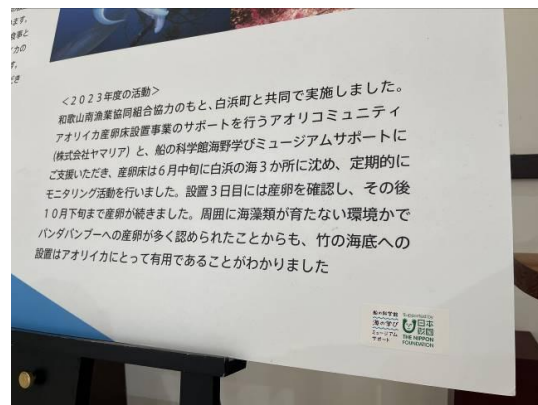
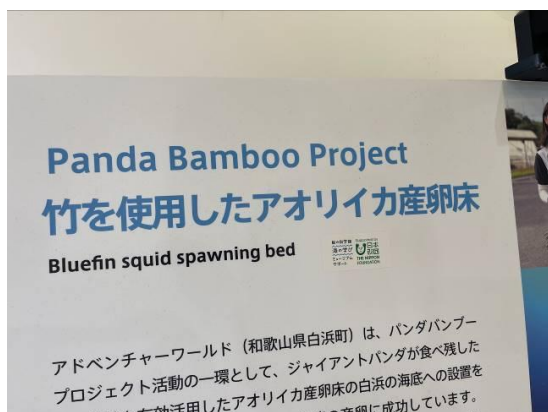
【開催日時】2023年11月26日（日）～2024年5月31日（金）

【開催場所】アドベンチャーワールド

【参加者数】400,000人

【活動内容・目的】

- 来園者が海の課題に触れ、考える機会を提供
- 環境保全への意識を醸成する機会とする



解説パネルを通じて、来園者は活動の目的、経緯、成果について詳細な情報を得ることができました。特に、パンダの食べ残した竹を有効活用する取り組みが、アオリイカの産卵環境を整えることに貢献している点を強調し、来園者の関心を引きました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

今年度は白浜の海3か所（白良浜沖、円月島付近、伊古木漁港区域内）にパンダが食べ残した竹を使って製作したアオリイカの産卵床を設置。産卵床は地元の白浜中学校の生徒約40名と共に製作しました。設置を通して本取り組みに参画することで、地元の海の課題を学ぶ機会を提供しました。

事業全体の成果

- ・活動を通して白浜の海的环境課題を知るきっかけをつくることができました。
- ・白浜の海が抱える課題を自分ゴト化し、行動変容を促すきっかけを作ることができました。
- ・一緒に産卵床の制作、設置を行った中学生を中心に地域の皆様と環境を回復させる取り組みを持続的に行うことで人と動物と自然の多様性・持続性に満ちた海を次世代に送り継ぐ機会を提供できました。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 白浜町	産卵床設置場所の調整、産卵床の製作
2. 和歌山南漁業協同組合	産卵床設置場所の調整・協力、産卵床設置、モニタリング調査
3. アクアマリンシラハマ	産卵床設置場所の調整
4. エルマールダイビングスクール	産卵床の製作、設置、モニタリング調査
5. ミスオーシャンダイビングサービス	産卵床設置場所の調整
6. 白浜中学校	産卵床の製作・設置

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 紀伊民報（新聞）	2023年6月15日
2. 毎日新聞（新聞）	2023年6月15日
3. 読売新聞（新聞）	2023年6月19日
4. 紀伊民報（新聞）	2023年6月25日
5. 毎日新聞（新聞）	2023年6月27日
6. 朝日新聞（新聞）	2023年6月27日

以上